



健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会普及広報課内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

第16回結核予防関係婦人団体中央講習会開催



開講式にてお言葉を述べられる秋篠宮妃殿下

平成24年2月28日から29日の2日間、東京都千代田区のKKRホテル東京にて秋篠宮妃殿下よりお言葉を賜り、第16回結核予防関係婦人団体中央講習会が開催されました。

秋篠宮妃殿下は、開講式への御臨席のほか、複十字シール運動や結核予防の普及活動についての課題・問題点を議論した班別討議の様子をご覧になり、各班別討議の結果を発表した全体討議を御聴講されるなど、講習会プログラムにも御臨席なさいました。

(秋篠宮妃殿下のお言葉は本誌2ページに記載)

結核研究所国際研修生との懇談会



国際研修生にお言葉をかけられる秋篠宮妃殿下

平成24年7月9日秋篠宮邸にて、平成24年度「ストップ結核アクション研修—効果的な結核対策実施に向けたオペレーショナルリサーチ強化コース」の13カ国17名の国際研修生との懇談会が開かれました。

結核国際研修50周年記念式典・シンポジウム開催



式典にてお言葉を述べられる秋篠宮妃殿下

平成24年7月26日東京都新宿区JICA研究所にて、秋篠宮妃殿下御臨席の下に結核国際研修50周年記念式典・シンポジウムが開催されました。

秋篠宮妃殿下から全国結核予防婦人団体連絡協議会に対し、結核予防会の国際的な活動を支えてきたことに対し感謝のお言葉をいただきました。

(秋篠宮妃殿下のお言葉は本誌2ページに記載)

第十六回結核予防関係婦人団体中央講習会 お言葉

平成二十四年二月二十八日（火）

本日、第十六回結核予防関係婦人団体中央講習会の開講式にあたり、全国よりお集まりの皆さまとお会いできましたことを、大変うれしく思います。

東日本大震災が発生して以来、間もなく一年を迎えます。この度の中央講習会には、被害の大きかった地域の皆さまも参加されていると伺っておりますが、厳しく困難な状況の中で、寒い季節を過ごしておられる人々が、どのようにお暮らしかと案じております。これまで、被災された方々に心を寄せつつ、さまざまなかたちで支えてこられました多くの皆さまの取組みに対して心から敬意を表します。

さて、結核予防婦人団体が長年にわたり果たしてこられた役割には、誠に大きいものがございます。

昨年二月に開催された中央講習会で得られました多くの成果は、その後、地区別の講習会やそれぞれの地域での活動に活かされたと伺っております。具体的には、結核予防の普及活動、複十字シール運動、若い女性の喫煙防止啓発活動、COPD対策への協力、子宮頸がん予防の活動などを進めてこられました。また、結核予防会やストリップ結核パートナーシップ日本などと共に、国内外の結核制圧のため、国際協力事業にも貢献しておられます。

皆さまのたゆまぬご努力によって、これらの意義深い活動が積極的に行われてきましたことを非常に心強く思います。

結核は、過去の病気ではありません。特にアジア諸国やアフリカ諸国においては主要な感染症として、今日も猛威をふるい続け、これらの国々における経済的な貧困の大きな原因の一つとなっております。また、日本も平成二十二年には二万三千二百六十一人の新たな結核患者が発生するなど依然として中蔓延国に位置しています。加えて結核患者の高齢化による合併症を有する患者の増加など結核問題は複雑化すると共に、質的な変化を見せています。このような状況の下で結核をなくすためには、多様化した結核対策をゆるみなく進めていく必要がございます。

本講習会に参加されるお一人お一人が、講演や討議を通して、結核予防をはじめ、人々の健康に関する幅広い事柄に一層理解を深められると共に、実り多い交流が行われますことを願い、開講式に寄せる言葉といたします。

結核国際研修五十周年記念式典 お言葉

平成二十四年七月二十六日（木）

本日は、結核国際研修五十周年記念式典にあたり、皆さまとお会いできましたことを大変うれしく思います。

結核国際研修は、昭和三十八年に、外務省と当時の厚生省の要請により、国際協力機構を通して、結核予防会結核研究所で実施されました。以来、今日まで、世界の九十七の国と地域から、二千人以上の医療従事者が研修を受けられました。

この五十年間、結核対策は着実に進められてきました。DOTS戦略による患者の発見と支援に加え、六年前に発表された「ストリップ結核世界計画」では、HIV合併結核や多剤耐性結核への対策が強化されました。これらの方針のもとに活動する人々の努力によって、三年後までに結核の死亡率と罹患率を減少に転じるという国連ミレニアム開発目標は、達成できる見込みになっていきます。

しかし、結核の制圧までには、なお長い道のりが予想されます。世界保健機関によると、一昨年には、世界で八百八十八万人が結核を発病し、百四十万人が結核によって命を失いました。このような状況の中で、結核対策と併せて、母子保健や生活習慣病対策を含めた保健システム全般を充実するための工夫も、重要でございます。

本研修を受け帰国された方々は、各地の結核対策において、更に広く医療、保健の分野にわたり大切な役割を果たしておられます。このような活躍に敬意を表するとともに、国際研修の成果が活かされていることを大変喜ばしく思います。

この結核国際研修が、日本において長期にわたって続けられた背景には、多くの関係者のご尽力があります。これまで、関係各省、国際協力機構、ストリップ結核パートナーシップなどの関係団体、そして世界保健機関、国際結核肺疾患予防連合、米国疾病予防管理センター等との連携がおこなわれてきました。また、結核予防婦人会も、結核予防会の国際的な活動を支えてきました。ご協力くださいました方々に、心から感謝を申し上げます。

本日の記念式典とシンポジウムが、結核国際研修の意義を深く認識するよき機会となるとともに、国際研修を通して築かれた人と人とのネットワークを活かして、「結核のない世界」にむけた努力が継続されていくことを願い、私の挨拶といたします。

結核国際研修50周年記念式典・シンポジウムに出席して (7月26日 JICA 研究所)

公益社団法人 全国結核予防婦人団体連絡協議会
副会長 米窪 千加代



結核国際研修50周年記念式典とシンポジウムがJICA研究所の国際会議場にて、去る7月26日に開催

されました。

～結核のない世界の実現に向けた人材育成～がメインテーマで、外務省、厚生労働省、ストップ結核パートナーシップ日本、WHO西太平洋地域事務局等の後援で行われました。

さすが国際会議場、世界の各地から集まる関係者が広い会場にいっぱいになり、同時通訳の必要な人にはイヤホンで聞く事のできる様に設備がされていました。日本語以外は英語が中心でしたが、国際的に活躍される方々には言葉の支援は大切とのことでした。ちなみに「わが国の結核予防会に関係するスタッフは、全員英語ができます」とのお話でした。

第1部記念式典は、結核予防会総裁秋篠宮妃殿下をお迎えして、世界各国から参加された方々で、会場いっぱい国際色豊かに始まりまし

た。私は、昨年、国際研修生を長野県にお迎えした時の事が懐かしく蘇りました。

主催者の開会挨拶に続き、秋篠宮妃殿下のお言葉をいただき、関係各位のご祝辞がありました。

記念講演は、結核予防会顧問の島尾忠男先生によります「国際研修50周年を迎えて－歴史と展望－」についてお話しされました。結核予防会の設立は昭和14年であり、戦後「結核対策は人材育成である」との考えから活動が始まり70余年になりました。「今、わが国は援助国になっているが、DOTSとHIVも併せて、いかなる宗教の人も含め結核対策の先導役となることを期待する」とのご講演でした。

第2部記念シンポジウムでは、テーマは「TB Free World 実現を目指し、保健シテム強化に貢献できる人材育成」と題して行われました。大菅克知先生をはじめ、国内外の一流の先生方6名による提案があり、特別発言も5名なさいましたなかで、ストップ結核ボランティア大使JOY氏のビデオメッセージもありました。

座長は結核予防会結核研究所所長石川信克先生と、国際協力機構人間開発部長萱島信子先生が勤められ、活発なフリートーク等もありました。

総括と閉会の挨拶を萱島先生がされて、第2部を終了いたしました。同時通訳もあり国際会議場のスケールの大きさと真剣さに感動する式典、シンポジウムでした。

公益社団法人 全国結核予防婦人団体連絡協議会
副会長 木下 幸子



去る、平成24年7月26日に公益財団法人結核予防会総裁秋篠宮妃殿下のご臨席のもと、

～TB Free World（結核のない世界）の実現に向けた人材育成～のテーマで結核国際研修50周年記念式典・シンポジウムが東京都市ヶ谷のJICA研究所国際会議場において開催されました。私もこの催しに参加させていただきまして大変ありがとうございました。

記念講演では「国際研修50周年を迎えて－歴史と展望－」と題し、結核予防会顧問の島尾忠男先生にお話しをいただき、昭和38年の研修開始以来50年間にわたり世界の結核対策や保健分野の人材育成で果たしてきた研修事業の意義等を拝聴しました。国際協力機構の研修事業として、結核予防会結核研究所において行われてきた「結核国際研修」では、これまでに世界97カ国から2千人以上の方がこの研修事業に参加、修了された後それぞれの国の結核対策や保健分野の指導者として活躍され、また、多数の方が国際機関で活躍されているそうです。

シンポジウムでは、この研修事業を修了後、インドネシアとウガンダに帰国されて、ご自分の国で結核対策をはじめとする国の保健政策面で活躍されているおふたりの方から、それぞれお国の状況等のお話があり、議論が進められました。その中でこの「結核国際研修」が果たされている役割が途上国をはじめとする国際社会においていかに重要なもの



記念講演の様子

であるか、人材育成に寄与しているかを窺い知ることができました。

今後もこの「結核国際研修」が、ますます世界各国の結核対策の人材育成に寄与され、結核対策と保健システムの強化に向けた更なる推進力となりますことを心より願います。



シンポジウムの様子



ストップ結核ボランティア大使 JOY氏からのビデオレター

写真で
振り返る



第16回結核予防関係婦人団体中央講習会

(2月28日・29日 KKRホテル東京)



全国各地の婦人会から104名受講されました

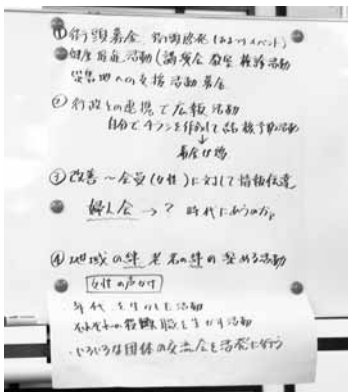


皆さんが熱心に受講されている様子

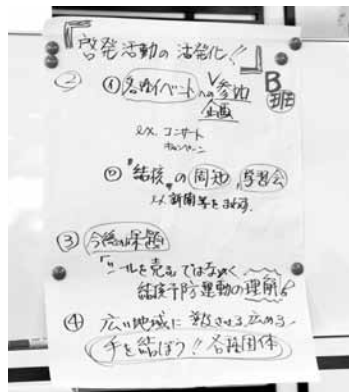


班別討議では活発な意見が交わされました

班別討議の意見をまとめ各班からの結果発表



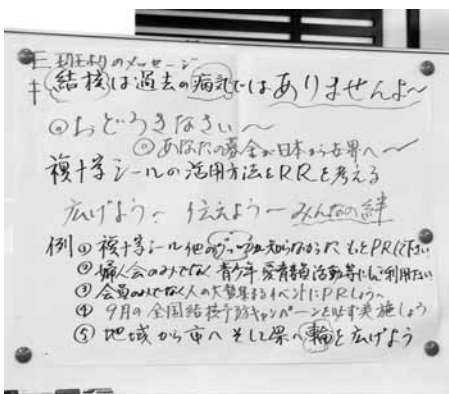
A班



B班



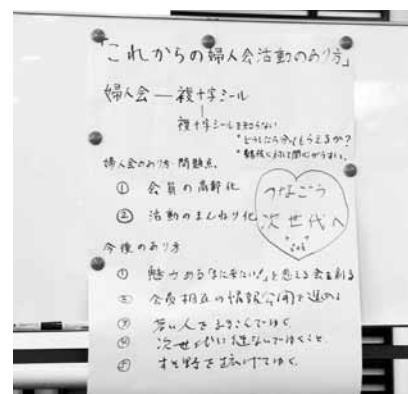
C班



E班



F班



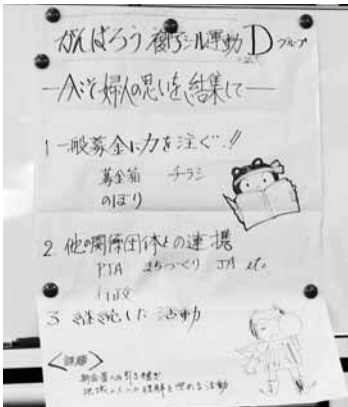
G班



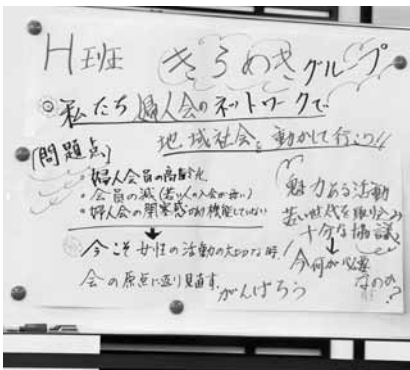
終講式では受講生代表の素晴らしい謝辞をいただきました
(結核予防婦人会秋田県連合会 今野清子様)



2日目には東京に雪が降りました
(会場からの雪景色)



D班



H班

中央講習会スケジュール

テーマ：自分の健康は自分で作る ～国民運動への展開～

● 第1日 2月28日 (火) ●

- 開講式 13:10 ~ 13:40
 主催者挨拶 結核予防婦人会 会長
 主催者挨拶 結核予防会 理事長
 総裁お言葉 秋篠宮妃殿下
 来賓挨拶 厚生労働省 健康局長
 「健康の歌」 斉唱
- 写真撮影 13:50 ~ 14:05
- 講演① 14:15 ~ 15:05
 『ドツツ (DOTS) の時代からストップ結核戦略へ』
 公益財団法人結核予防会国際部業務課 課長代理 岡田 耕輔
- 講演② 15:05 ~ 15:35
 『BCG接種 小児結核予防の決め手』
 公益財団法人結核予防会結核研究所 名誉所長 森 亨
- 講演③ 15:45 ~ 16:35
 『転ばぬ先の杖・ボケぬ先の知恵』
 特定非営利活動法人日本認知症予防研究所 理事長 國分 恵子
- 講演④ 16:45 ~ 17:15
 肺の生活習慣病『知っていますか? COPD (たばこ病)』
 COPD 共同研究委員会 研究員 加藤 久幸
 肺年齢→COPD DVD (TBS制作)
- 講演⑤ 17:25 ~ 17:55
 「ワッハッハッ健幸体操」
 特定非営利活動法人健康生活研究会 副理事長 浅野 有信

● 第2日 2月29日 (水) ●

- 講演⑥ 8:30 ~ 9:00
 『結核予防婦人会について』
 『複十字シール募金の効果的活用について』
 公益財団法人結核予防会 事業部顧問
 全国結核予防婦人団体連絡協議会 理事・事務局長 山下 武子
- 講演⑦ 9:10 ~ 10:00
 『更年期のうつ』
 小山嵩夫クリニック 院長 小山 嵩夫
- オリエンテーション 10:00 ~ 10:10
- 班別討議 10:10 ~ 11:50
- 婦人会の皆様へ 12:00 ~ 12:20
- 終講式 12:20 ~ 12:30
 主催者挨拶 結核予防婦人会 会長
 主催者挨拶 結核予防会 専務理事
 修了証・バッジ授与
 受講生代表
 蛍の光斉唱

会長就任ご挨拶

結核予防婦人会長野県連合会
会長 中條 智子



平成24年度結核予防婦人会長野県連合会の会長という重責を務めることになり、微力ではありますが実績あるこの結核予防婦人会を向上すべく引き継いでまいりますのでご協力をよろしくお願い致します。

我が国の結核の現状は残念ながら、世界的に「結核の中まん延国」として位置づけられています。正しい知識の普及が、感染拡大防止の上で重要であることから、全国的な要請の中8月6日、県庁に阿部知事を表敬訪問しました。知事は「結核予防は大切なことなので婦人会の活動へ期待する」旨申されました。

また、毎年開催する「信州婦人健康のつどい」は31回を数え9月12日に開催しました。午前の部は、式典と講演があり、結核予防会事業部顧問の山下武子先生よりご講演いただきました。午後の部は、競技と演技により体を動かし「信濃の国」の踊りと、県下各地から約600人の参加で年1回のつどいを盛り上げました。

時の助け合いができる婦人パワーの素晴らしさを実感し、より確かな絆を結ぶことが出来ました。

本年は、三重県地域婦人団体連絡協議会は創立65周年を迎え、今役員一同記念事業の準備にかかっております。

65年という長い年月、県婦連の活動を継続して下さった諸先輩の活動の灯りを未来へつなげるために、微力ながらも三重県婦連のより一層の結束と、その輪を大きく広める努力をいたしたく思っております。

三重県婦連イコール結核予防婦人団体活動としては、全国結核予防会の複十字シール運動は基より、更に三重県婦連の本年度事業の中に、年1回は、結核についての勉強会をとり入れ、今なお結核の発生率の高いことや、死亡人口が多いことなどを婦人会員だけでなく広く一般住民に対しての啓発活動を、結核予防会三重県支部のご協力を得ながら事業実施に取り組みます。

関係諸団体のみなさま方との連携を密にし、情報を共有しご指導を仰ぎながら頑張らせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

沖縄県結核予防婦人連絡協議会
会長 平良 菊



前大城節子会長の後任として会長に就任いたしました。

就任早々、米軍普天間基地へのオスプレイ配備が本格化し、オール沖縄での配備阻止行動であわだしく緊張した日々が続いています。

そのような中、8月1日県内で「結核で母子死亡、医療関係の職員や患者ら19人が集団感染」との報道がありました。

このことから、結核予防婦人会を組織し健康で明るい地域社会や家庭の実現を目指し活動してきた団体として、これまで毎年の講習会でより多くの会員に知識の普及や情報発信をし、婦人会員の多くは、咳やタン、微熱＝結核では？と関心を持つようになっていきます。

しかし、巷ではいかに結核という病気が知られていないかを痛感せざるを得ません。

国際化が進展し、人々の流出入が著しい社会では、結核予防活動には今まで以上の取り組みが必要だと思っています。

三重県地域婦人団体連絡協議会
(三重県結核予防婦人会)
会長 梶田 淑子



私こと、大川妙子会長の後を引き継ぎ、本年より会長をお引き受けいたしました。

昨年は、全国地域婦人団体研究大会・三重大会開催にあたり、全国各県婦人団体の多くの会員みなさまのご協力ありがとうございました。おかげでまさかの

平成24年度消費者支援功労者
総理大臣表彰

特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟
会長 谷茂岡 正子



編集委員就任ご挨拶

継いでほしいと打診されたのがきっかけで平成18年度からお仲間に入らせていただきました。

東京地婦連は、今年で創立67年になりました。活動は、安心して住みよい地域社会づくりのために、消費者問題、環境問題、高齢者福祉、青少年問題、平和問題など幅広い活動を続けています。

今年5月、東京地婦連は長年の消

費者問題の活動を認められ、平成24年度消費者支援功労者総理大臣表彰をうけました。表彰式が首相官邸で行われ、私は野田総理から表彰状と盾を受けとらせていただき、また、当日表彰を受けた団体・個人30人を代表し謝辞を述べさせていただきました。

東京地婦連は、消費生活の分野において、都内の団体をリードし、消費者被害の未然防止・救済支援活動に取り組んできました。毎月発行している機関紙「婦人時時報」では消費者問題をいち早く取り上げ注意喚起情報を載せてきました。商品やサービスの不適正な表示・偽装などに対して、是正を求める運動は消費者の視点での調査、意見表明をして市場の商品に常に監視の目を向けています。最近の活動では、介護福祉用具での事故やケガについて分

かりやすい展示で注意喚起を図ったことが評価されました。都の審議会や協議会では、消費者の声を代表する立場から活発に意見を述べ、行政と消費者団体が協働して行う10月東京都消費者月間事業では、設立当初から積極的にかかわり、企画や運営面で大きく貢献しています。

このような活動のなかで、新しく、結核予防の活動が加わりました。複十字シール募金活動は地道な活動

ですが、共同してきた消費者団体にも複十字シール募金の広報をしながら、結核撲滅のための啓発活動を進めています。機関紙をフルに活用しながら情報発信をしていこうと思います。

今回「健康の輪」の編集委員に加わらせていただいたのを機会に、一層結核撲滅のための啓発に努めたいと思います。



表彰式



表彰役員

厚生労働省 表敬訪問

平成24年度の複十字シール運動にあたり、8月7日に厚生労働大臣（外山健康局長が対応）に表敬訪問を実施いたしました。結核予防会からは、長田理事長・藤木事業部長・山下事業部顧問・市川普及広報課長、全国結核予防婦人団体連絡協議会は、中畔会長が出席されました。



厚生労働大臣表敬訪問（外山健康局長対応）

まず、全国一斉大臣表敬訪問と決議宣言について説明し、要望として、年々結核患者の発生数は少しずつではあるが減少しているにもかかわらず、死亡数は平成21年、22年、23年と変化していない。結核の医療に問題があるのではないかと調べていただきたい。

また、岩手県と宮城県の罹患率が10.0を切っている。東日本大震災の影響の有無について調査していただきたい等々口頭にてお願いしてまいりました。

知事 表敬訪問

複十字シール運動は活動の基盤

結核予防婦人会秋田県連合会 会長 小玉 喜久子



8月1日から全国一斉複十字シール運動キャンペーンが始まるのに先立ち7月30日、秋田県知事表敬訪問を実施しました。

結核予防会秋田県支部から関係者4名と、結核予防婦人会秋田県連合会から会長他5名が出席し、県庁応接室に於いて堀井啓一副知事に複十字シール運動への理解をお願いしました。

県健康推進課の成田課長が司会

を担当され、私ども表敬訪問者の紹介がありました。

続いて、私から時間をいただいたお礼、複十字シール運動の目的と使命、募金の使途、秋田県の平成23年度募金額などをお話し、A3に拡大した第63回結核予防全国大会決議文と宣誓文を複十字シール・リーフレット・クリアファイルの資料と共に、堀井副知事に手渡しました。

また、結核予防婦人会秋田県連合会について昭和40年の創立以来、会員は結核検診やその他検診の受診勧奨、結核予防の普及啓発のための複十字シール運動に力をそそいでいること、今年度は9月29日に、秋田駅前街頭募金活動を実施すること、ハンセン病予防法廃止後も結核予防婦人会として、国立ハンセン病療養所交流訪問や、ハンセン病援護募金活動を続けていることをご報告しました。

堀井副知事からは「励ましの言葉」と「シール募金の方法」について質問がありましたので、シール募金は婦人会員が担っており、戸別訪問・事業所訪問・自治会からの支援協力をいただいていることや、首長と婦人会長の連名で、募金のお願い文書を出して、『家庭に居て出来る国際協力を』とひと声かけて募金への協力をお願いし、後日お礼と報告の文書を配布していることなどを、お話ししました。

さらに、今年4月に秋田県立近代美術館で、複十字シールのデザインをお願いしている安野光雅画伯の「絵本展」があり、充実して盛会だったことにもふれました。

この度も、地元新聞に表敬訪問の

内容が報道され、多くの県民にシール運動の理解と、結核予防への関心を高める機会となりました。



栃木県結核予防婦人連絡協議会 会長 小野 ナツ



平成24年度複十字シール募金運動が8月1日より始まりました。

この運動は、結核や肺がん、その他肺の病気をなくし、健康で明るい社会づくりのための事業資金です。

私たち栃木県結核予防婦人会では、即この事業資金達成のため、更に、知識と啓発と予防意識の高揚を図ることを目的に、地域の実情に合わせて、ある時は街角に立って募金活動を取り入れながら、結核撲滅を目指し、このシール運動の輪を広げております。

結核は長年の努力と生活水準の向上で、かつては「死の病」と恐れられていたのが過去の病気と考えられ、一般の関心が薄れつつありますが、現状は再び高齢者や経済的弱者に猛威を振るう脅威がしのび寄つつあります。

これからの結核対策は大変重要なことです。

それを丈に、改めて結核を良く知っていただき、関心をもっていたくこと、そして結核対策の強化を求めて、毎年8月の運動開始に合わせて、知事表敬訪問を行っております。

今年は8月7日結核予防会栃木県支部理事長を始め3名の方々と共に訪問いたしました。

この日、知事は公務出張のため県保健福祉部長ほか関係課長等々の対応に与り、私たちの熱い思いを伝えてまいりました。

はじめに、結核予防会栃木県支部理事長より表敬訪問の趣旨を説明、複十字シール運動のキャンペーングッズ等を紹介した後、私たちの地道な活動状況について発表し、更なる結核対策の強化と、県民への関心を高められるよう改めて要望してまいりました。

なお、この運動期間中の私たちの活動実施日程、複十字シール運動キャンペーン実施要領を説明してまいりました。

会議は終始和やかに、質疑応答



等々を交えた大変実のある表敬訪問となり、最後に記念撮影をして解散となりました。

この運動の成果は、必ずや明るい社会づくりに反映されることを確信し、更なる運動の強化につなげてまいりたいと思いました。



新聞記事

奈良県健康を守る婦人の会
会長 中島 祐子



■ 元気で永生き
奈良県健康を守る婦人の会では、毎年8月1日を「表敬訪問」の日として「元気で永生き」をテーマに結核予防会役職員の皆

様（医療政策部長 副支部長 武末文男氏、保健予防課監事 四元敏博氏、事務局長 古川弘明氏、事務森田夕夏氏）と話し合える良い機会になるように願っています。

■ 現状と課題

健康を守る婦人の会は、奈良県地域婦人団体と表裏一体の組織であるが故に、会員減少が伴い啓発に力が入りません。

また、会員の高齢化・マンネリ化を如何に打破するか、難しい課題が山積みされています。ところが、こんな現状にもかかわらず平成24年度より新しく2団体（奈良県女性教育推進会、奈良県国際女性振興会）が加入していただき大きな力を得る事ができました。

■ 複十字シール運動の役割

まず、健康の輪を広げること、そのためには、行政と住民が一体化し、会員相互の連携を深めると共に、結核を忘れ油断していることに気づく真摯な姿勢が必要です。

そのためには、組織の活性化が最重要課題となり、改めて複十字シール運動の意識、そして、広く世界に目を向け、自分自身の感心度の高揚に努力しなくてはならないと思っています。

■ 運動の目標として

- 一、健康で明るい社会の構築
- 一、結核は世界最大の感染症であること
- 一、集団発生の恐ろしさを自覚する
- 一、結核菌は肺だけではなく他の臓器にも侵入する
- 一、最近、高齢者の増加に伴い発症率が高い

等々、啓発に参加する私たちも、もっと、もっと結核に対する知識をしっかりと伝えるべきだと反省もいたしました。

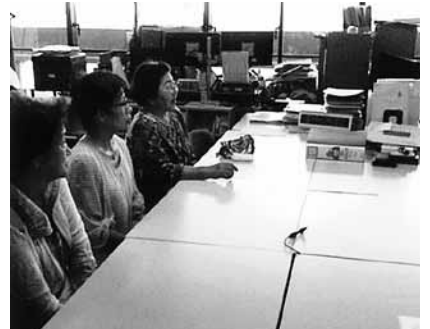
■ 結核予防週間

結核予防会では毎年9月24日～30日を結核予防週間と決められ、奈良県ではその週間に合わせて、街頭啓発及び各地域での募金運動が始まります。

秋の彼岸で、彼岸花が真っ赤に咲き「ああ、また複十字シール募金運動」と溜息をつく人、「今年もあの場所に彼岸花が咲いているかなあ」と土手に向け寄る人、様々な光景に楽しさをプラスして微笑み合う仲間と仲間、交わし合う言葉は、「やっぱり健康っていいなあ」

私は、いついつまでも彼岸花のように真っ赤に燃えている複十字シール運動である事を臨んでいます。

みんなの健康のために！！



香川県婦人団体連絡協議会
会長 野田 法子



連日の猛暑が続く8月20日、結核予防会香川県支部森下会長とともに例年より遅れての浜田知事表敬訪問となりました。

今年も、複十字シール運動が始まった事をご報告し、香川県でも

小豆島の結核集団感染が話題のほり、「実はまだ身近な病気である。毎年少しずつ罹患率は下がっているものの、正しい知識と予防意識の啓発活動の手は緩めないように」と運動のご協力をお願いしました。知事からは「結核が増えたり、なかなか減らなかつたりするのはなぜですか」とのご質問に対して「一つは結核に感染した事に気づかず、そのため、結核の症状の発見が遅れるという診断のあやまりと、早期発見の遅れなどがしばしばある」と森下会長からの回答がありました。また、「BCG、ツベルクリンの実施状況について」県業務感染課からは「昔はツベルクリン反応で抗体が由来しているかを確認し、陰性ならば再度BCGでの予防接種が行われていましたが、今は、生後6ヶ月までにBCGを行いツベルクリン反応検査は行われていない。しかし、乳幼児が結核に感染した場合、脳髄炎を起こしたり、後遺症が残ったり重大化することが多いので重要である」と報告されました。「また一方で、結核は過去の病気とされているが、高齢者等過去に感染したものが再発するなど、まだまだ油断はできない」との事でした。

加えて複十字マークの意味については9世紀頃、あるキリスト教派の象徴として使われ、第1回十字軍の指揮官が楯の紋章に使い戦ったことから、平和と希望の象徴となり「国際結核会議」で複十字マークを世界共通のシンボルとすることが決定されました。私たち県婦連会員も、この複十字シール運動を積極的に進め募金活動を行う事により、その意義をご理解いただき多くの人々にPRさせていただいております。併せて、結核を知らない若年層への啓発のためにも、街頭キャンペーンで結核撲滅の重要性のアピールと、各種行事での啓発活動に県下あげて行うためのご提案、ご協力をお願いし、知事室を後にしました。



一般財団法人 長崎県地域婦人団体連絡協議会
会長 牟田 久美子



去る8月1日、複十字シール運動にあたって知事への表敬訪問に参りましたが、知事は出張とのことで、県福祉保健部長さん、課長さんにご挨拶をいたしました。

次の日、そのことで新聞に掲載されました。

結核予防婦人会の歴史や、結核は依然として我が国における感染症であり、なお十分な対応が必要であること、私達は、これに対して中央講習会や、地区別講習会に参加し、勉強しています。会員の連携、情報交換を得て、結核予防の普及に努めなければならないこと、健やかな日々を送るため、自分の健康は自分で守り結核のなくなる世界を目指して、また、発展途上国の子供達のためにも、私達は、もっと、もっと、募金活動をしていかななくてはならないのではないか。行政の方々はもちろん、私達婦人会も、複十字シール運動がしっかりと解かっていない人が多いようです。

複十字シール運動に積極的に取り組んでみんなで頑張っていきたい

とお話いたしました。行政の皆さんにもご協力を頂くことを約束していただきました。

人口減少時代に入り、少子高齢化が進み、より増大が見込まれる中、治療より予防に力を置くことが求められています。

ますます、我が婦人会の出番が大きくなってくるものと思います。

私達は、地域のお祭り等の行事の際、街頭募金や、複十字シールの意図等説明して、頑張っております。これからも続けていくようにしております。

部長さんからも、婦人会が頼りです、しっかりとお願いいたしますとのお言葉をかけていただき握手をしてお別れいたしました。

短い限られた時間ででしたが、写真を撮ったり、励ましの言葉を頂いたり、感謝の気持ちで失礼いたしました。



平成23年度複十字シール募金 結果報告

● 募金結果について

婦人会の皆様方におかれましては、全国一斉知事表敬、結核予防週間などで複十字シール運動にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本会が平成22年7月に公益認定を取得し、翌年の4月から新しい複十字シール運動が始まりました。新たな「複十字シール運動募金実施要領」に基づいて複十字シール運動を行っております。

次に、昨年度の複十字シール募金結果報告については下記のとおりとなりました。

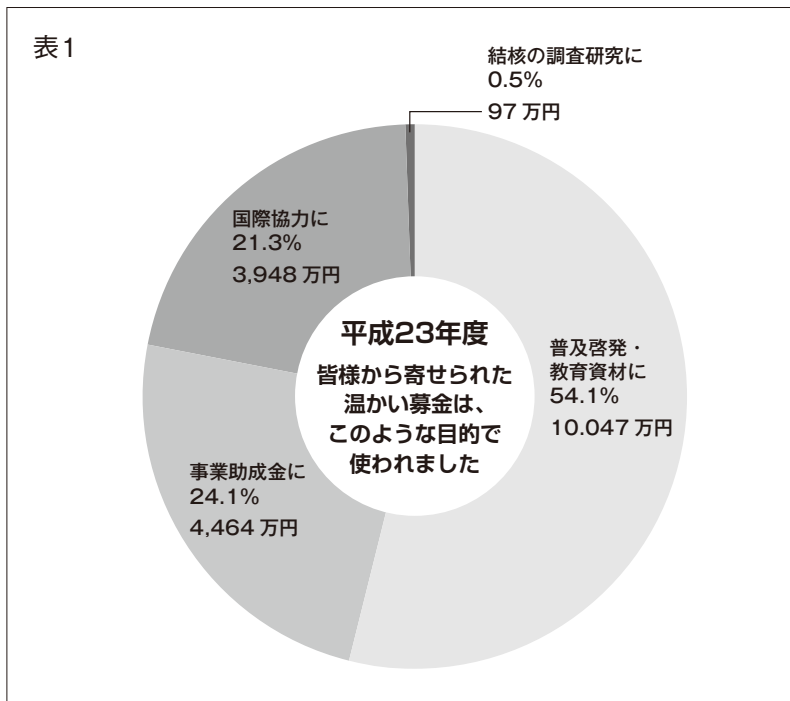
募金総額	305,629,443円
益金	185,564,002円
経費	120,065,441円

募金総額 約3億5百万円のうち、23.5% 約7,200万円が婦人会による募金となります。県別婦人会の募金結果は、1位が静岡県、2位秋田県、3位熊本県となりました。

益金については、複十字シール運動・結核予防週間・全国大会などの普及啓発活動や教育資材の作成、婦人会などへの事業助成金、途上国への国際協力、結核の調査研究に使わせていただきました。今後の複十字シール運動募金は、経費を減らし益金をより一層有効に使うことが大切となります。



表1



● 募金方法について

募金の方法は、下記のとおりとなります。

1. 郵便振込 (手数料免除)

指定の振込用紙をご使用いただき、郵便振込により募金できます。

2. 銀行振込 (手数料免除)

指定の振込用紙をご使用いただき、みずほ銀行と三菱東京UFJ銀行から募金できます。

3. 郵便切手

切手でも募金ができます。もちろん、領収書も発行できます。

4. クレジット・カード

5社 (VISA・マスターカード・JCB・ダイナースクラブ・アメリカンエキスプレス) のクレジットカードがご利用いただけます。ご利用のクレジットカードをご用意のう

え、本会ホームページまたは、フリーダイヤル (0120-416864) にてお申込ください。

5. 定額小為替証書

最寄りの郵便局・ゆうちょ銀行で扱っております。証書1枚につき、100円の手数料をご負担いただくことになります。

6. 現金

婦人会または結核予防会の支部に直接募金する。婦人会などを通して現金で募金する。その際、リーフレットにも結核予防の知識、前年の募金額、益金の使途などが載っていますので、是非ご覧ください。また、複十字シールは、募金の媒体ですので必ず受け取って下さい。

最後に、今年度の複十字シール運動推進のため絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

全国結核予防婦人団体連絡協議会製作の 普及広報資材をご活用ください！

結核は過去の病気ではありません。結核をなくすため
複十字シール募金活動にご協力ください。

全国結核予防婦人団体連絡協議会では今年度、
複十字シール運動キャンペーン用資材として
「ミニクリアファイル」を製作いたしました。

すでに、結核予防会各都道府県支部を通して
ご希望により7月末にお送りしておりますが、追
加でご希望される婦人会がございましたらご連
絡ください。

なお、送料はご負担
いただいておりますので、
ご了承ください。



問い合わせ先：公益社団法人

全国結核予防婦人団体連絡協議会 事務局

電話：03-3292-9288

シールぼうや とってもカワイイNEW 着ぐるみ完成



今年度、シールぼうやの着ぐるみが新しくなりました。
今回の着ぐるみは、内部にファン付きで快適な着心地と
なっています。

貸し出しをしておりますので、複十字シール広報活動にお
役立ててください。

問い合わせ先：公益財団法人結核予防会
事業部普及広報課

電話：03-3292-9287

イラスト・カット募集

平成25年3月号（健康の輪No.107）に掲載するイラスト・カット
を募集致します。

花・動物・その他、何でも結構です。

締切は、平成25年1月11日（当会必着）です。

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12

TEL：03-3292-9288

